

戦いくさ イ「争う」の(イ)と同じ。口人差指一指だけでなく、戦う兵士の復数を意味させるため、五指を多くの剣になぞらえてかち合わせる。

いくつ いくら 親指から順次に五指を折って行く。

○「値代はいくらですか」。親指と人差指で輪はつくり(お金)、次に親指から順次に五指を折って行く。

池 掌を上に向け、五指の指頭を左にさした右手(池の水面)を囲むように、五指の指頭を前方にさし、掌を右に向けた左手を彎曲して(池の堤)右手(水面)の五指をかすかに波打たせる。

いけない 指頭を上にした右手の人差指を、右から左へ鼻の上をさっと切るようにする。「よい」は鼻高を表わすに対して、鼻高を切って表わす心得。

意見 人差指の指頭を、こめかみの上辺りに突き刺すようにつける。少し頭をかしげるがよい。頭の中に考えがあること、「考え」「思う」ともなる。

以後 「後ごで」と同じ手まね。

遺骨 白い布で(人差指で、齒を指し「白」を表わし)首にかけ、胸の前に捧げる身振り。

勇ましい 両肘を張り、両手を拳にして下に向け、胸の前で、交互に前方に往復させる。活発に動作する姿を見せたもので、「活躍」ともなる。

意志 人差指で腹部(心)をさしてから、その手の指頭を前方直角にさして突き進ませる。心の赴くところ、ひたりに進むとの意味。

意地 人差指で腹部(心)をさして、その位置でその手を拳に力強く握りしめる。「心」

をしっかり固く把握して動じない意味。

石 (1) 掌を上向けた手を拳に握りしめて、その手首の辺りを口で噛む真似をする。歯におえない石の固さを表現したもの。「固い」の手まねにもなる。(2) 左手の五指の指頭を前方にさし、右に向けた掌を、右手の五指の指頭で打ちつける。火打石の石を打ち合わせる動作により石を表わしたものの。

医者 医—男性(女医の場合女性)

以上 (1)「六以上」とするには、左手で「六」の数を表わしたので、右手の掌に載せ上へさし上げる。(2)「それまで」の意味の「以上」は「終わり」と同じ手まね。

偉人 偉い—名高い—男性(或は女性)

椅子 椅子 左手の人差指と中指を椅子の腰掛け台として、その上に、右手の人差指と中指を椅子にかける人の両脚として、曲げて載せる。以前 (1) 過去と同じ手まね。(2) 「その

以前」とする場合、五指の指頭を前方にさし、掌を右向けた左手に、五指の指頭を左にさし、掌を上向けた右手を接近させて、その五指を少し曲げて右へ引き返す。左手を「その」「その時」の線として右手を右へ引き返すのは、「その前」「それまでの時」を表わしたものの。

忙しい 「急<sup>いそ</sup>げる」「周章<sup>しゅうしょう</sup>てる」と同じ。

しかし、表情に相違がある筈。

急ぐ 「忙しい」と同じ。これも、その意味に添う表情を持つ。

悪戯<sup>いたづら</sup> 「悪<sup>わる</sup>さ」「やんちゃ」と同じ手まね

頂く 両手を重ね合わせて額へ頂く。貰う

受ける身振り。

痛い 痛む 掌を上向け、五指を彎曲しては伸ばす運動を二三度繰り返す。「わくわく」と痛む感覚を表現したもの。片手にても、両手を同時に使ってもよい。

手